

駿府町地区文化・スポーツを核としたまちづくり検討委員会記録簿

	日 時	平成 30 年 10 月 29 日 (月) 10 時 30 分～12 時 00 分	場 所	静岡市役所静岡庁舎第 1 委員会室
出席者	委 員	公募委員 石川氏 株式会社シアターワークショップ 伊東代表取締役 工学院大学建築学部まちづくり学科 遠藤教授 公募委員 小川氏 日本政策投資銀行 地域企画部 桂田参事役 株式会社浮月 久保田代表取締役社長 公益社団法人ジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグ 経営戦略グループ 佐野シニアマネージャー 静岡市自治会連合会 瀧会長		
	静岡市	赤堀政策官 企画局 川崎公共資産統括監 観光交流文化局 中島局長、大石次長 アセットマネジメント推進課 向達課長 文化振興課 矢澤課長 スポーツ交流課 望月課長 スポーツ振興課 稲葉課長 アセットマネジメント推進課 原田主幹、曾根田副主幹、宇佐美主任主事		
	都市環境研究所	土橋、兼森、平寄		
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・検討委員会名簿 ・会場レイアウト ・資料 1 第一回検討委員会の意見まとめ ・資料 2 施設計画検討の前提条件 ・資料 3 施設計画（案） ・資料 4 論点と評価の視点 ・資料 5 検討ケースの評価 ・資料 6 施設へのアクセス性向上方策の検討 ・資料 7 駿府町地区文化・スポーツ施設整備方針目次構成（案） ・参考資料 1 第一回検討委員会記録 ・参考資料 2 ホール・アリーナの近年事例の規模比較 			
<p>■施設再整備の目的等について</p> <p>・昨年度の懇話会では、施設再整備の目的の一つである交流人口の増加について、文化・スポーツ施設と歴史文化施設の合算値で示されていた。文化・スポーツ施設単独での、交流人口の創出目標を伺いたい。（石川）</p> <p>→昨年度の検討では、最大でケース 2 の年間 95 万 6 千人、最小でケース 4 の 50 万人を目標としてお示しした。整備が進んでいる歴史文化施設は年間 15 万人を目標としている。また、駿府城周辺では、様々なプロジェクトの検討を同時並行で進めている。歩いて楽しいまちづくりや施設整備、オープンスペースの創出等の都市デザインによって静岡市中心部の交流人口の増加を目指しており、単独の施設のみで人を集めることは考えていない。複数プロジェクトの連携によって、静岡市街地の交流人口の増</p>				

加を図ることを目標としている。(事務局)

→複数のプロジェクトの連携によって交流人口の増加を目指す考え方に同意である。静岡市街地での交流人口の増加目標値が具体的に示されているのであれば、その達成のためにアリーナが必要かという観点から、計画地でのアリーナ整備の必要性の判断基準となると考えている。具体的な目標値はなく、可能な範囲で交流人口の増加を目指していくという考えであると捉えて良いか。(石川)

→可能な範囲で交流人口の増加を目指していくという認識で良い。(事務局)

- ・静岡市は夜間交流人口が低く、夜間交流人口の増加が重要であると考えている。計 850 室相当のホテル整備が静岡・清水エリアで進められており、全国のホテルチェーンからは静岡市の観光ポテンシャルが認められていると考えられる。市民文化会館の現在の稼働率は非常に高く、現在と同じ規模のホールの再整備だけではさらなる交流人口の増加にはつながりにくいため、アリーナ等の現在よりも大規模な集客機能に期待している。静岡市内での宿泊の有無によってまちなかで消費される金額が大幅に変わってくるため、夜間興行の増加にも期待している。(久保田)

→資料 4 に整理されていない論点である。夜間交流人口を増加させるための機能や空間に関する検証が必要だと感じる。(遠藤)

→夜間交流人口の増加のためには、ナイトエンターテインメントや歩きたくなる夜間景観づくり等を周辺で展開していくことが重要だと考えている。日帰り観光ではなく連泊してもらうためには 1 週間程度の期間実施するフェスティバル等の連続プログラムが有効である。連続プログラムを積極的に開催するためには、まちなかのオープンスペースの配置や活用が重要となる。(中島)

- ・開催地周辺にインバウンド効果を波及させるための取組みが重要である。沖縄では、B リーグの試合開始時間が平日夜 8 時の場合もあり、興行前に周辺で食事をしてもらうことが可能である。また、海外では 24 時まで営業を行っている博物館もある。チームラボによるライティングの実施等のイベントの実施によって、若い世代の利用も増加させることも考えられる。(佐野)

- ・一市民として、名古屋や東京への人口流失は問題であると感じている。若い働き手が東京へ流出したり、東京の大学に進学した学生がそのまま東京で働いて静岡に帰ってこなかったりといった状況が増えている。どうすれば静岡に残ってくれるのか、どうしたら静岡のまちにプライドを持ってくれるのかという観点から、「静岡はいろいろな人やことが集まる場所だ」と思ってもらえるシンボリックな場所に変えていきたい。(久保田)

→シビックプライドを高める施設を目指すべきであるという貴重な意見である。(遠藤)

■施設計画案について

□アリーナの機能・スペックについて

- ・B リーグアリーナ検査要項の 2018-2019 シーズン版用が公開されているのでご確認いただきたい。スイートボックス、ラウンジ、ミックスゾーン、ミーツスペースの設置が新たに要件として追加された。また、検査要項以外の運営上必要な機能としては、30~50 名程度のボランティアスペース、運営本部スペース、演者の控室があるが、ケース 2、3 はそのスペースが小さい。コンサートを開催する場合は、更にその大きさは必要となる。必要な機能を確保し、プロモーターに選ばれる施設にして欲しい。計画地内での車両動線についても検討する必要がある。物資の搬入は、B リーグの試合開催時には 10t トラック 2 台、音楽イベント時には 10t トラック 10 台程度で行われる。会場全体が一体となって盛り上がることできるのはコの字型の客席配置なので、スポーツ興行時はステージ部分に客席を設置することも考えられる。(佐野)

- ・コの字形の客席配置はアリーナとして成立するのか。スポーツ用のアリーナは、やはりコートや 360 度囲うコの字型の客席配置が好ましいのではないかと。(伊東)

□ホールの機能・スペックについて

- ・ケース 1,2 は、ホールの使い勝手が現状よりも悪くなるだろう。劇団の人にとっては、現在の中ホール

の舞台や袖、楽屋はとても使いやすいと聞いている。再整備後も現在と同等の広さを確保していただきたい。また、楽屋が2階にあるのは使い勝手が悪いので、配慮してほしい。(小川)

・現在、休憩時間にはトイレに長蛇の列ができるため、男性トイレを解放する運営上の工夫を行っている。スムーズな運営を行える計画であることも重要な観点なので、施設規模は縮小しないことが望ましい。(小川)

・施設計画(案)を見ると、建ぺい率40%という厳しい条件のなかで苦労して納めた計画だと感じる。そのためステージ幅の不足等の機能面の課題が残る計画となっている。(伊東)

・ケース3は2,000席のホールは不必要であると言っている案に近い。(伊東)

・ケース1,2の大ホールは、舞台袖が狭い。昨今のホール事例と比較しても、これほど舞台等が狭いものはない。舞台転換ができないため演目が非常に限定的となる。(伊東)

□その他事項について

・まちづくりの観点から、本当に大ホールの客席は2,000席も必要なのか等、計画地に本当に求められる施設のスペックを明確にしておかなければ、議論の軸も明確にならないのではないかと。中途半端な施設を整備することは避けるべきなので、アリーナとしての評価と劇場としての評価の2つの観点からの議論が必要だと感じる。(伊東)

・市民会館南側の駐車場がある場所への300席程度の小ホール整備について市民要望が市に提出されたが、風致地区が指定されている関係で整備できないという理由で実現しなかった過去の経緯がある。(小川)

・アリーナ、大ホール、中ホールの3施設全てを計画地に収めることは難しいように感じるため、必要な機能の選択が重要となる。(石川)

・施設計画については交通の課題の検証、交流人口増加のターゲット、休館期間対策、敷地条件に合わせた中での各検討ケースについての機能スペック不足への懸念等について議論された。アリーナ、大ホール、中ホールの全てを十分なスペックで計画することが難しい場合には、まちづくりの視点から、どのような観点でどの機能を選択するか検討が必要になるだろう。(遠藤)

■検討ケースの評価について

□交通に関する課題について

・ケース2,3についての交通課題を定量的に整理することで、アリーナの導入によって増加する交流人口が、交通処理上許容可能かを判断することができるのではないかと。(桂田)

→交通課題も踏まえた検討として、昨年度の懇話会で示されたケース1~4があったのではないかと。今回の検討会ではそれらの検討をより具体的に示していただいていると理解している。(石川)

→建築計画上の避難検証等の課題については、現段階では定量的な検討が難しいため、定性的な整理を行っている。ケース1,2については、災害時や終演時等に7千人の観客が同時に施設外に出る際の動線上の滞留空間が十分に確保できていないという課題があり、避難計画上は厳しいことが想定される。設計時には避難計画が成立するか検証する必要があるとともに、成立するとしても、幅の狭い鉄砲階段は望ましい計画ではないと考えている。(事務局)

→アリーナが導入されることによる市街地への影響評価は可能かと。(桂田)

→計画地内での新規駐車場の整備は行わないことを前提としているので、交差点解析を行っても現在と変わらない結果になると考えられる。(事務局)

→駐車場台数が変わらなければ、アリーナを導入しても交通に関する課題は生じないという回答のように捉えられる。(石川)

→選ばれる施設となるため、アリーナとしてどの程度の駐車場スペックが必要なかは把握する必要があると考えている。運営事業者等を対象に実施予定の市場調査で、アリーナ等に必要とする駐車台数等についても確認したいと考えている。(事務局)

→定量的な分析は必要だと感じる。市場調査の際も、交通上の課題については確認してほしい。(遠藤)

→計画地内での駐車場の増設は周辺交通への影響を考慮すると難しいため、公共交通を活用する検討を行っていききたい。(事務局)

- ・交通の課題については、駅南の競輪場の駐車場等の計画地から離れた場所に新規の駐車場を確保し、駐車場と計画地をシャトルバスでつなぐことも考えられる。いずれにしても、公共交通を使ってもらうことが重要である。(瀧)

□休館期間について

- ・再整備期間について、4年半も市民会館が利用できないことは、大きな課題である。中ホールを先行整備するなどして、休館期間を縮小する工夫を行ってほしい。(小川)

□景観について

- ・私はお堀沿いの緑道を散歩道として利用している。緑道を廃止する必要のある案は、景観の観点からは好ましくないと考えている。大きなボリュームを持つ施設が計画地の狭いスペースに配置されることに對しても、景観の観点から好ましくないように感じる。(小川)

□交流人口増加のターゲットについて

- ・交流人口増加のターゲットが、地域の人か、来街者かについても整理を行った上で議論を行う必要があるだろう。(伊東)

→これまで市外のイベントに出かけていた市民が、市内に出かけるようになってほしいという観点では地元の交流人口の増加である。来街者の交流人口の増加については、1987年にTHE ALFEEが日本平でオールナイトコンサートを開催した際、富士宮から浜松まで、市内全てのホテルが満室になったという伝説的な出来事があった。大きなイベントを開催できることで、地域内外どちらについても、交流人口の増加を目指せるのではないかと考えている。(久保田)

→交流人口を増やすには、コンサート等の催事のみでは限界がある。クラシックホールとして名高いサントリーホールでさえも、年間利用者数は60万人程度である。一方で、大和市文化創造拠点シリウスでは、ホールと図書館等のサードプレスとなる空間を併設することで、年間利用者数は300万人に上る。地元の日常利用の創出は、交流人口の増加に対するインパクトが大きい。(伊東)

→静岡市は独立した都市圏なので、大和市のような東京近郊の都市とは特性が異なるだろう。静岡市で年間利用者数300万人を創出することは難しいように感じる。(久保田)

→交流人口の増加のためには、アリーナ機能に拘らず、日常的な利用も有効であることを説明する事例として、大和市文化創造拠点シリウスを挙げさせていただいた。(伊東)

→静岡市民文化会館の稼働率について、催事種類別の稼働率を教えてください。市民利用が中心か、クラシック公演が中心か等によって、議論の方向性が変わってくるだろう。(石川)

→次回検討会時にお示ししたい。(事務局)

□全般的な評価について

- ・課題はあるものの、私はアリーナ機能の導入に賛成である。アリーナ機能の導入ありきで、そのために削る必要があるものは何かという方針で検討を行ってほしい。静岡市には大規模なイベント会場がないため、大規模なイベントは県外の施設で開催されている。バスケットやバレーの試合、コンサート等をきっかけに県外の人に泊まりで静岡に来てほしい。(瀧)

- ・著名アーティストのコンサートが地元静岡で行われることはとても魅力である。一方で、中途半端な施設では、プロモーターに選ばれず、著名アーティストを呼べない可能性がある。市としてどのようなアーティストを呼べると考えているのか、それが市民ニーズに応えられるものなのかを示していただかないと、アリーナの導入には賛成できない。(小川)

以上